

## 第4分科会 司書教諭の役割

助言者 松下 寿

発表者 高橋 美嘉 (水明小学校)

関島 真知子(豊丘中学校)

井原 舞 (塩尻西小学校)

頓所 本一 (木島平中学校)

中島 寛子 (岡谷田中小学校)

平中 和司 (上松中学校)

牧 志帆 (栗ガ丘小学校)

山崎 久子 (北部中学校)

### 1 発表の概要

司書教諭委員会のみなさんによるレポート発表の後、アニメーションのワークショップを体験。

(1)司書教諭委員会の皆さんによるレポート発表

①「司書教諭の役割」

頓所 本一先生

**子どもが図書館に足を運ぶ三つの意味を読み解く**

一つ目は哲学(自分づくり 図書館は私の意味と経験を編み直す居場所)、二つ目は探究(世界づくり 図書館は、教科の学びの質をレベルアップさせる居場所)、一番大事な三つ目は平等(仲間づくり 図書館は、すべての子どもが主人公である居場所)。

**子どもにとって魅力ある図書館にするために**

魅力ある図書館づくりをするためには4つの領域の充実が求められる。4つの領域とは「ことばの学び」「探究の学び」「アートの学び」「市民性の学び」である。これらのバランスを意識して選書したり、子どものニーズに応えた閲覧を工夫したりすることにより、魅力ある図書館づくりができるのではないだろうか。

②「司書教諭1年目、はじめの一步」

～地域の読み聞かせボランティア「はーとふる」さんに学ぶ読み聞かせの実践～

牧 志帆先生

今までの子どもたちへ読み聞かせをする際の選書の基準は、「盛り上がる」「おもしろい」「参加型」であったが、子どもたちにとってその本はどうだったか、心に響いたのかと言われると自信がなかった。「はーとふる」さんとの月1回の勉強会を機に、選書の大切さを知り、子どもたちにメッセージ性のある本を読みたいと考えた。そして、「だいじょうぶ だいじょうぶ」(いとうひろし作・絵 講談社)を選書し、読み聞かせをした。子どもたちの反応もよく、担任が普段の話として伝えるよりも、本を読み聞かせすることで子どもたちの心に響く「本のもつ力」を実感した。

(2)ワークショップ

「子どもと本をつなぐアニメーション」

中島 寛子先生

アニメーションとは、読書への誘いである。クイズやゲーム的手法を用いて、一冊の本の世界を楽しもうという試みで、遊び感覚で本の世界を発見する手助けとなる活動である。「ともだちさがし(本に出てくる友だち同士を見つけ、お話と組み合わせる方法)」、「オノマトペ～これ何の音?～(宮沢賢治の作品の擬音語・擬態語と作品を組み合わせる活動)」など、様々なアニメーションの実践例を聞き、実際に体験した。

### 2 まとめ(助言者のご指導)

- ・「司書教諭の役割」では、子どもたちの居場所という意味での図書館の役割の重要性が感じられた。子どもの目線から図書館づくりをしていくことが魅力ある学校図書館づくりとなる。
- ・牧先生の実践は、それぞれ先生方の学校の読み聞かせ団体と比べながら聞くことができたのではないだろうか。
- ・アニメーションのワークショップでは、初めて出会った先生方と協力し、楽しめる活動であった。すぐにでも実践できそうなものなので取り入れていきたい。